

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

8月24日

「霊、たましい、からだの完全な守り」

第4聖日

(I テサロニク連続講演第19回)

3366号

聖言

平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨の時、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。テサロニク I 5:23

礼拝の恵み⑬ 第一七章

第六部 礼拝のための力

礼拝のための力は神の第三位、聖霊である。

第二節 聖霊のみわざ

(六) 教会との関係

「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだになるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。」(コリント一ノ二ノ一三)これが五旬節の日の出来事である。キリストの御約束どおり聖霊は降り、すべての信者をキリストにおいて一つの体にする。すなわち教会に、統合した。パウロも教会を一つの建物にたとえて「この方にあつて、組み合わされた建物の全体が成長し、主にあつて聖なる宮となるのであり、このキリストに会つて、あなたがたとも建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。」(エペソ二ノ二一、二二)また、パウロはエペソにある聖徒にすすめて「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。謙遜と柔和の限りをつくし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、平和の絆で結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。」(エペソ四ノ一ノ三)。コリント一ノ二ノ一四章で神の霊は集会で活動し、ここでは聖霊は霊的な賜物を授け、展開を励まし、力を与える。これらの賜物が聖霊の導きで働き集会の徳が高められ、組み合わされ、それらが合してキリストを証言する。各自の信者が聖霊に導かれて賜物を行使するとき、未信者が神を認める。

(「礼拝」APギブス著)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年八月一七日午前一〇時 礼拝 山本牧師

パウロのお願い(一テサロニケ連続講演第一八回)

「だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行なうように務めなさい。いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあつて神があなたのために望んでおられることです。」(テサロニケ「五ノ一五〜一八」)

「万事について(神に)感謝しなさい(環境がどのようであっても、感謝深くあり、感謝をささげなさい。)」というのは、それはキリスト・イエスのあるあなたがたに対する神のみこころであり、(キリストはそのみこころの啓示者また仲介者であられるからです。)(テサロニケ「五ノ一八」詳訳)

これらは主の御心なので必ず行なわなければなりません。しかし、多くのクリスチャンはわたしにはできません。と言われます。それは「この世と調子をあわせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるかをわきまえ知るために、心の一新によつて自分を変えなさい。」(ローマ一ノ二ノ二)とあるように。聖徒が自分の体を生きた供え物としてささげることが神の御心です。そうするなら何時でも喜ぶことが出来ます。なぜなら、私は自分を喜ばせるために生きていない。神様と人を喜ばす為にいきていると言う思いがあるから、どんな時でも幸福です。わたしは昨日水族園に行きました。子どもたちが、家族連れで雨のも関わらず沢山来ていました。この子どもたちが戦争にいつて殺し合いをしない世界にしないでほならない。と心に誓いました。数年前に韓国のソウルにいったときもデパートに沢山のひとがきていた。一〇〇年前日本が植民地にして、よくもまあ、土足で人の家に入りこんで天皇を拝め、名前を日本名に変えとい

えたものだ。怒るのも当たり前だと思いました。今は腹立たしい時代である。しかし、私のような罪人を救い、母をこうして教会に来てくれ、一緒に礼拝をささげることが、何にも増して嬉しいことです。ある人は恋人が欲しい。ある人は就職をした。お金が欲しい。ある人は健康が欲しい。守屋姉はのごろかゆみがきつく体をかき通しです。しかし、いつも喜んでいます。水族園の魚たちもケースの中で泳いでいるが、すいすい泳いでいる。それに引き換え、人間は自由に何でもしているのに不幸だ不幸だと感謝をしない。いつも折れることは喜びです。祈りは喜びをもたらします。思い煩う時、ああでもない。こうでもない。と思索するときでも、祈るとき神様は最善の道を示してください。人間は自分の欲を求めます。動機が不純です。祈るとき動機を探られ、神様の御心をなにか。まず、生きた供え物として自分をささげ、神の御用に用いていただくのです。玉川学園のモットーは、「も嫌な事、汚いこと、そんなこと、楽しくないこと、苦しいこと、怖いこと、愚かなこと、恥ずかしい事を微笑んで行なう。」です。その時初めて感謝することができます。守屋姉は不平を聞いたことがあります。反対に不平ばかり言う人がいます。変えられないことは受け入れ、変えられることは喜びと祈りと感謝をもって神様に求めようではありませんか。

二〇一四年八月二〇日午後七時 祈祷会 山本牧師

「死と希望」(エゼキエル連続一八回)

「わたしは彼らに一つの心を与える。すなわち、わたしはあなたがたのうちに新しい霊を与える。私は彼らの体から石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える。」(エゼキエル一ノ一九)

一、一ノ一〜一二 エルサレムはその中にいけば絶対安全な「なべ」か

二、一三〇二一 ベラテヤの死と慰め 民族の回復と浄化の約束

三、二二〇二五 主の栄光、エルサレムを去る。

ベラテヤと言う名は「主は逃れさせられる」と言う意味。その名はエルサレムの破滅は避けられないとしても、その中で生き残る者があるという希望を抱かせる名前である。そのベラテヤが死んだことで、イスラエルの民が全滅してしまうような印象を持ったのである。彼は「イスラエルの残りの者」(一)すなわち前回の敗北の時にエルサレムに残留した人々にイスラエル再興の望みをかけていた。ところがその人々が全滅したら、一体誰がイスラエルの再興の中核となるかと危機感を持った。主はエゼキエルにバビロンに連れてこられた人がイスラエルを再興するという。

「家を建てる者達の見捨てた石、それが礎の石となった」(マルコ一ノ一〇)「後の者がさきになり。」(マタイ一九ノ三〇)「この世の知者や権力者を選ばず、取るに足らないものを見下されているものを選ばれた。」(「コリント一ノ二六〇一八」)あなたがたは、以前は抜くに置いては異邦人でした。そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあつて望みもなく、神もないひとたちでした。しかし、以前は遠くはなれていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスのなかにあることにより、キリストの血によって近いものとされたのです。(エペソ二ノ一〇一〜一三) 私たちも高ぶらないで神の御支配のこの逆説を知っておこう。主がかれの心をそのように変革してくださると言う約束である。この約束は七〇年の捕囚の後に部分的に成就した。完全にはイエス・キリストにより新生と聖潔によ

り成就する。

ところでエゼキエルがこの預言を語ったのはエルサレムの住民でなく、バビロンのユダヤ人であった。捕囚のユダヤ人の本当の希望はエルサレムに帰れるかも知れないという不確かな予想ではなく、主がやがて散された民を集め、新しい心、新しい霊を与えて、新しいイスラエルを造られるという約束である。

(鷹取裕成著「エゼキエル書」参考)